

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3671700254		
法人名	社会福祉法人 健祥会		
事業所名	グループホーム 礼あり優あり		
所在地	徳島県吉野川市鴨島町麻植塚字向麻山西196-1		
自己評価作成日	平成22年8月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3671700254&amp;SCD=320">http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3671700254&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年9月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者が安心して過ごせるような事業所を目指し、掃除や洗濯などを一緒に行い家庭的な環境づくりを大切にしている。事業所の菜園で利用者と一緒に収穫を行っている。母体法人の併設事業所と連携を図り、地域交流の場を設けている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は3ユニットあり、各ユニット間を自由に行き来することができる。職員は、利用者が事業所の中で相互に生活の領域を広げられるように努めている。利用者と職員が、ともにゆったりと過ごすことができるように配慮している。職員は、事業所内・外の研修会に積極的に参加し、職員間で協力し合って利用者のケアの質の向上に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な環境のもとで、心と尊厳のある生活を一人一人のニーズに対応した介護サービスを提供します。」という理念を掲げ、朝礼時に職員が交代で唱和している。理念を理解し、実践につなげている。	事業所は、地域密着型サービス事業所の意義を理解している。毎日を楽しみ過ごしてもらえるように利用者一人ひとりのニーズに対応した介護サービスを提供するという理念をつくっている。職員は朝礼時に理念を唱和し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日ごろから散歩や地域行事に出かけて交流している。併設事業所の利用者との交流もある。合同敬老会を開催し、地域の老人会の方との交流の機会を持っている。	事業所は、町内会に加入している。地域の行事に参加し交流を図っている。併設事業所と合同で敬老会を開催したり、祭りに模擬店を出すなど地域の方との交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の行事案内をしたり研修会を開催して、地域の方へのケアサービスの推進に還元している。実習生を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施行事や行事予定を報告している。参加者から意見を出してもらったり地域の情報を収集し、サービスの質の向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。事業所の活動報告や今後の事業説明を行っている。参加者から出された意見をもとに話し合い、運営やサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	吉野川市グループホーム連絡協議会や運営推進会議で、市担当者や地域包括支援センター職員と定期的に情報交換を行っている。市担当ケアマネジャーと連携し、ケアプランを作成している。	市担当者とは、月次報告の際などに課題解決に向けたアプローチを行っている。また、吉野川市グループホーム連絡協議会や運営推進会議等の開催時に、定期的に情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で身体拘束についての研修会を開催している。身体拘束ゼロを掲げ、ケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修会を開催し、その弊害について正しく理解している。玄関の開錠や車椅子に身体をベルトで固定しないようなケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修を行い、虐待防止に向けて取り組んでいる。法令を理解し、遵守できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見人制度を利用した経験がある。権利擁護に関する制度について勉強会を開催し、職員に説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に、重要事項説明書の内容についての説明を行い、事業所について理解・納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時などに意見を聞くようにしている。運営推進会議で家族から意見を出してもらい、サービスの質の向上に活かしている。各ユニットに苦情処理箱を設置している。	家族の来訪時に、利用者の担当職員が意見や要望等を聞くようにしている。運営推進会議で意見を出してもらって検討し、運営に反映させている。各ユニットに意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を開催して意見や要望を聞く場を設けている。日ごろからコミュニケーションを図り、理解を深めている。	毎月、定期的に職員会議を開催し、職員から意見や要望を聞いて運営に反映させている。日ごろから、職員間でコミュニケーションを図り、職員間の良い関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の評価体制を構築し、向上心を持って働けるように職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に研修への参加を促し、知識や技術の向上を図っている。母体法人による介護技術チェックを行い、段階的にレベルアップが図れる体制をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吉野川市グループホーム連絡協議会や、老人福祉施設協議会グループホーム部会に参加し、他の事業所の職員と交流を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族と面会し、サービスについての説明を行って不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の希望や要望を聴き、事業所で安心して暮らしていけるよう設備の充実、職員の質の向上に努めている。これまでの苦労や家族の意向を十分聞いて、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申込時に本人の心身状態を見極め、サービスが適切であるかを判断している。必要に応じて他事業所と連携を図り、安心・納得のうえでサービスを受けてもらえるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員がともに支え合える関係を築いている。お互いが励まし合い、穏やかに生活ができるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に行事案内をしたり、健康管理について連絡を取り合っており、ともに本人を支えていく関係づくりに取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお祭りに参加したり、行きつけのお店や美容室に行けるように支援している。	地域の祭りに参加したり、馴染みの店や美容室を利用できるように送迎の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように職員が間に入り、利用者同士の関係がうまくいくように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移った場合は、事業所での暮らし方など情報を提供して以前と変わらない生活が送れるよう働きかけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動や表情から本人の思いを把握し、どのような暮らしが最良なのかを家族を交えて検討している。	日ごろの暮らしの中で声をかけ、思いや暮らし方の希望等の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりのこれまでの暮らし方など、本人や家族、地域の方から情報を得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや趣味、体力等を見極め、できることを見つけるとともに、毎朝バイタルチェックを行って心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやカンファレンスを全職員で行い介護計画に反映している。どのようなケアが必要であるかを話し合っている。	本人や家族とは、日ごろの関わりの中でより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合い、介護計画に反映させている。アセスメントを含め、全職員でモニタリングやカンファレンスを行い、見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日ごろの様子や、ケアの実践・結果、活動記録、サービス担当者会議、モニタリングの内容を記録して、職員間で情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院や受診支援を行い、個々に合わせて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設事業所と連携している。また、地域のボランティアへ協力を呼びかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関を受診している。家族と協力し、通院介助を行っている。	本人や家族の希望する医療機関を受診できるよう支援している。通院時、利用者や家族の状態を把握している職員が同行し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携し、申し送りを徹底することで常に利用者の健康管理や支援を行えるような体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院する際、職員が付き添って病院関係者へ情報を提供している。退院後はかかりつけ医や協力医療機関と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期看取りの指針やマニュアルを作成している。利用者や家族の意向を大切に、かかりつけ医や協力医療機関と連携を密に図っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、「終末期・看取りの指針マニュアル」を作成している。入居時など早い段階において、本人や家族、かかりつけ医との連携を密に図っている。関係者間で情報を共有し、チームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故が起こるたびに検討委員会を開催し事故の再発防止に努めている。急変や事故が発生した場合は、迅速な行動がとれるよう体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーを設置し、防火対策に努めている。消防署の協力のもと、利用者とともに消火器の使い方や避難訓練を定期的に行っている。地域の方も参加し、協力体制を築いている。	災害時に備えて、スプリンクラー等の設備を完備している。消防署や地域への協力をお願いし、利用者が安全に避難できるよう、年2回、避難訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所内研修を行い、プライバシーの保護や個人情報取り扱いについて、十分に注意するよう徹底している。また、日ごろの何気ない会話でも本人のプライバシーを損なわないような対応や声かけに配慮している。	一人ひとりの人格を尊重したケアに努めている。プライバシーや誇りを損なわない言葉かけや対応に配慮している。事業所で研修会を実施し、職員への周知を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できる場面づくりに取り組んでいる。希望や願いを把握し、関わる時間を増やしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個性にそった生活の流れを理解し、一人ひとりに合った支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は利用者に化粧やおしゃれを楽しんでもらえるように見守りや支援をしている。馴染みの美容院へ出かけるなど本人の望む店に行けるよう努めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に調理を行い、楽しみながら食事ができるような環境づくりに取り組んでいる。事業所の菜園での収穫等も楽しんでもらって、食事を楽しむことができるよう支援している。	母体法人の管理栄養士が献立を立てている。利用者一人ひとりの好みや力に合わせて、職員と一緒に調理し食事を楽しんでいる。事業所の菜園で採れた野菜等も楽しみながら食べている。一人ひとりの人格を尊重し静かに見守っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし、不足していないかを確認できる体制を築いている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。マニュアルにそった研修を実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をチェックし、パターンを把握している。おむつの使用を減らし、トイレで排泄できるよう支援している。	記録をもとに一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの自立した排泄の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1500mlを目標に、水分を摂取してもらっている。身体を動かす機会をつくり献立の工夫や見直しを行って自然排便できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日、午前・午後と利用者の希望する時間に入れる体制をとっている。家庭的な浴室で落ち着いて入浴ができるよう支援している。	入浴は、午前・午後を問わず入れるようになっている。入浴を好まない利用者には、声かけの仕方や対応する職員、時間を変えるなど、一人ひとりにそった支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、散歩や体操等を行うことで生活リズムを整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し個人ケースに整理し、職員が内容を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族の協力を得て、利用者の希望や嗜好にあった役割づくりを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望する場所や買い物に出かけている。外食やドライブ等も行っている。	利用者の希望にそって、散歩や外食、ドライブ等に出かけている。計画を立て、近くの山へ出かけている。家族や地域の方の協力を得ている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方には、家族の協力を得て少額のお金を持ってもらっている。一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも電話をかけられるよう支援している。手紙やハガキでのやり取りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけや家具等の配置を工夫し、安心して生活できるように配慮している。吹き抜けと床暖房により快適な生活空間をつくっている。	共用空間は、車椅子や歩行できる利用者が自由に動ける広さがある。安定感のある机や椅子を配置している。ソファは室内と窓外が眺められるように配置し、壁面には利用者と職員と一緒に秋の七草を折り紙にした作品が掲示されている。吹き抜けからの採光や床暖房等、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室の部屋や炬燵、テーブル、ソファを置き、居心地よくつるぎる空間をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真を持ち込み、馴染みの生活スタイルに合わせた居室づくりに取り組んでいる。	利用者や家族と相談し、使い慣れた家具や写真等を持ち込み、馴染みの品に囲まれた居室づくりに取り組んでいる。使用していない家具や衣類はストッカーに入れて片付けられている。フローリングや畳敷きの居室など、一人ひとりにあった居室になるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な生活環境づくりを心がけている。利用者にとって危険なものは配置せず、安全に生活できる環境を整えている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			川	渦	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な環境のもとで、心と尊厳のある生活を一人一人のニーズに対応した介護サービスを提供します。」という理念を掲げ、朝礼時に職員が交代で唱和している。理念を理解し、実践につなげている。	「家庭的な環境のもとで、心と尊厳のある生活を一人一人のニーズに対応した介護サービスを提供します。」という理念を掲げ、朝礼時に職員が交代で唱和している。理念を理解し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日ごろから散歩や地域行事に出かけて交流している。併設事業所の利用者との交流もある。合同敬老会を開催し、地域の老人会の方との交流の機会を持っている。	日ごろから散歩や地域行事に出かけて交流している。併設事業所の利用者との交流もある。合同敬老会を開催し、地域の老人会の方との交流の機会を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の行事案内をしたり研修会を開催して、地域の方へのケアサービスの推進に還元している。実習生を受け入れている。	事業所の行事案内をしたり研修会を開催して、地域の方へのケアサービスの推進に還元している。実習生を受け入れている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施行事や行事予定を報告している。参加者から意見を出してもらったり地域の情報を収集し、サービスの質の向上に活かしている。	実施行事や行事予定を報告している。参加者から意見を出してもらったり地域の情報を収集し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	吉野川市グループホーム連絡協議会や運営推進会議で、市担当者や地域包括支援センター職員と定期的に情報交換を行っている。市担当ケアマネジャーと連携し、ケアプランを作成している。	吉野川市グループホーム連絡協議会や運営推進会議で、市担当者や地域包括支援センター職員と定期的に情報交換を行っている。市担当ケアマネジャーと連携し、ケアプランを作成している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で身体拘束についての研修会を開催している。身体拘束ゼロを掲げ、ケアに取り組んでいる。	事業所内で身体拘束についての研修会を開催している。身体拘束ゼロを掲げ、ケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修を行い、虐待防止に向けて取り組んでいる。法令を理解し、遵守できるよう努めている。	事業所内研修を行い、虐待防止に向けて取り組んでいる。法令を理解し、遵守できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			川 実践状況	渦 実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見人制度を利用した経験がある。権利擁護に関する制度について勉強会を開催し、職員に説明している。	以前、成年後見人制度を利用した経験がある。権利擁護に関する制度について勉強会を開催し、職員に説明している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に、重要事項説明書の内容についての説明を行い、事業所について理解・納得を得るようにしている。	入居の際に、重要事項説明書の内容についての説明を行い、事業所について理解・納得を得るようにしている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時などに意見を聞くようになっている。運営推進会議で家族から意見を出してもらい、サービスの質の向上に活かしている。各ユニットに苦情処理箱を設置している。	家族の来訪時などに意見を聞くようになっている。運営推進会議で家族から意見を出してもらい、サービスの質の向上に活かしている。各ユニットに苦情処理箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を開催して意見や要望を聞く場を設けている。日ごろからコミュニケーションを図り、理解を深めている。	毎月、職員会議を開催して意見や要望を聞く場を設けている。日ごろからコミュニケーションを図り、理解を深めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の評価体制を構築し、向上心を持って働けるように職場環境の整備に努めている。	職員の評価体制を構築し、向上心を持って働けるように職場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に研修への参加を促し、知識や技術の向上を図っている。母体法人による介護技術チェックを行い、段階的にレベルアップが図れる体制をとっている。	職員に研修への参加を促し、知識や技術の向上を図っている。母体法人による介護技術チェックを行い、段階的にレベルアップが図れる体制をとっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吉野川市グループホーム連絡協議会や、老人福祉施設協議会グループホーム部会に参加し、他の事業所の職員と交流を持つようになっている。	吉野川市グループホーム連絡協議会や、老人福祉施設協議会グループホーム部会に参加し、他の事業所の職員と交流を持つようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	川	自己評価	渦	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>								
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族と面会し、サービスについての説明を行って不安の解消に努めている。	入居前に本人や家族と面会し、サービスについての説明を行って不安の解消に努めている。				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の希望や要望を聴き、事業所で安心して暮らしていけるよう設備の充実、職員の質の向上に努めている。これまでの苦労や家族の意向を十分聞いて、信頼関係づくりに努めている。	本人や家族の希望や要望を聴き、事業所で安心して暮らしていけるよう設備の充実、職員の質の向上に努めている。これまでの苦労や家族の意向を十分聞いて、信頼関係づくりに努めている。				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申込時に本人の心身状態を見極め、サービスが適切であるかを判断している。必要に応じて他事業所と連携を図り、安心・納得のうえでサービスを受けてもらえるよう努めている。	利用申込時に本人の心身状態を見極め、サービスが適切であるかを判断している。必要に応じて他事業所と連携を図り、安心・納得のうえでサービスを受けてもらえるよう努めている。				
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや調理の手伝いなど、利用者ができることをお願いしている。	洗濯物たたみや調理の手伝いなど、利用者ができることをお願いしている。				
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に行事案内をしたり、健康管理について連絡を取り合っ、ともに本人を支えていく関係づくりに取り組んでいる。	家族に行事案内をしたり、健康管理について連絡を取り合っ、ともに本人を支えていく関係づくりに取り組んでいる。				
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお祭りに参加したり、行きつけのお店や美容室に行けるように支援している。	地域のお祭りに参加したり、行きつけのお店や美容室に行けるように支援している。				
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように職員が間に入り、利用者同士の関係がうまくいくように支援している。	利用者が孤立しないように職員が間に入り、利用者同士の関係がうまくいくように支援している。				

自己	外部	項目	自己評価	川	自己評価	渦	自己評価	
			実践状況		実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移った場合は、事業所での暮らし方など情報を提供して以前と変わらない生活が送れるよう働きかけている。	他の事業所へ移った場合は、事業所での暮らし方など情報を提供して以前と変わらない生活が送れるよう働きかけている。				
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>								
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの行動や表情から思いを把握し、どのような暮らしが最良なのかを家族を交えて検討している。	行動や表情から本人の思いを把握し、どのような暮らしが最良なのかを家族を交えて検討している。				
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりのこれまでの暮らし方など、本人や家族、地域の方から情報を得られるよう努めている。	利用者一人ひとりのこれまでの暮らし方など、本人や家族、地域の方から情報を得られるよう努めている。				
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや趣味、体力等を見極め、できることを見つけるとともに、毎朝バイタルチェックを行って心身状態の把握に努めている。	一人ひとりの生活リズムや趣味、体力等を見極め、できることを見つけるとともに、毎朝バイタルチェックを行って心身状態の把握に努めている。				
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやカンファレンスを全職員で行い、介護計画に反映している。	アセスメントやカンファレンスを全職員で行い介護計画に反映している。どのようなケアが必要であるかを話し合っている。				
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日ごろの様子や、ケアの実践・結果、活動記録、サービス担当者会議、モニタリングの内容を記録して、職員間で情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。	日ごろの様子や、ケアの実践・結果、活動記録、サービス担当者会議、モニタリングの内容を記録して、職員間で情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。				
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院や受診支援を行い、個々に合わせて柔軟に対応している。	本人や家族の状況に応じて通院や受診支援を行い、個々に合わせて柔軟に対応している。				

自己	外部	項目	自己評価	川	自己評価	渦	自己評価
			実践状況		実践状況		実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来訪がある。また、利用者とともに「剣」ユニットで開催しているお楽しみ会を見に行っている。		ボランティアの来訪がある。また、利用者とともに「剣」ユニットで開催しているお楽しみ会を見に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関を受診している。家族と協力し、通院介助を行っている。		利用者や家族が希望する医療機関を受診している。家族と協力し、通院介助を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携し、申し送りを徹底することで常に利用者の健康管理や支援を行えるような体制を築いている。		看護師と連携し、申し送りを徹底することで常に利用者の健康管理や支援を行えるような体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院する際、職員が付き添って病院関係者へ情報を提供している。退院後はかかりつけ医や協力医療機関と連携を図っている。		利用者が入院する際、職員が付き添って病院関係者へ情報を提供している。退院後はかかりつけ医や協力医療機関と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期看取りの指針やマニュアルを作成している。利用者や家族の意向を大切に、かかりつけ医や協力医療機関と連携を密に図っている。		終末期看取りの指針やマニュアルを作成している。利用者や家族の意向を大切に、かかりつけ医や協力医療機関と連携を密に図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故が起こるたびに検討委員会を開催し事故の再発防止に努めている。急変や事故が発生した場合は、迅速な行動がとれるよう体制を整えている。		事故が起こるたびに検討委員会を開催し事故の再発防止に努めている。急変や事故が発生した場合は、迅速な行動がとれるよう体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーを設置し、防火対策に努めている。消防署の協力のもと、利用者とともに消火器の使い方や避難訓練を定期的に行っている。地域の方も参加し、協力体制を築いている。		スプリンクラーを設置し、防火対策に努めている。消防署の協力のもと、利用者とともに消火器の使い方や避難訓練を定期的に行っている。地域の方も参加し、協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	川	自己評価	渦	自己評価	
			実践状況		実践状況		実践状況	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所内研修を行い、プライバシーの保護や個人情報取り扱いについて、十分に注意するよう徹底している。また、日ごろの何気ない会話でも本人のプライバシーを損なわないような対応や声かけに配慮している。	事業所内研修を行い、プライバシーの保護や個人情報取り扱いについて、十分に注意するよう徹底している。また、日ごろの何気ない会話でも本人のプライバシーを損なわないような対応や声かけに配慮している。				
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できる場面づくりに取り組んでいる。希望や願いを把握し、関わる時間を増やしている。	利用者が自己決定できる場面づくりに取り組んでいる。希望や願いを把握し、関わる時間を増やしている。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個性にそった生活の流れを理解し、一人ひとりに合った支援を行っている。	利用者の個性にそった生活の流れを理解し、一人ひとりに合った支援を行っている。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は利用者に化粧やおしゃれを楽しんでもらえるように見守りや支援をしている。馴染みの美容院へ出かけるなど本人の望む店に行けるよう努めている。	職員は利用者に化粧やおしゃれを楽しんでもらえるように見守りや支援をしている。馴染みの美容院へ出かけるなど本人の望む店に行けるよう努めている。				
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に調理を行い、楽しみながら食事ができるような環境づくりに取り組んでいる。事業所の菜園での収穫等も楽しんでもらって、食事を楽しむことができるよう支援している。	利用者と職員と一緒に調理を行い、楽しみながら食事ができるような環境づくりに取り組んでいる。事業所の菜園での収穫等も楽しんでもらって、食事を楽しむことができるよう支援している。				
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし、不足していないかを確認できる体制を築いている。	食事・水分摂取量をチェックし、不足していないかを確認できる体制を築いている。				
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。マニュアルにそった研修を実施している。	毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。マニュアルにそった研修を実施している。				

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			川 実践状況	渦 実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をチェックし、パターンを把握している。おむつの使用を減らし、トイレで排泄できるよう支援している。	排泄記録をチェックし、パターンを把握している。おむつの使用を減らし、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1500mlを目標に、水分を摂取してもらっている。身体を動かす機会をつくり献立の工夫や見直しを行って自然排便できるように取り組んでいる。	1500mlを目標に、水分を摂取してもらっている。身体を動かす機会をつくり献立の工夫や見直しを行って自然排便できるように取り組んでいる。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日、午前・午後と利用者の希望する時間に入れる体制をとっている。家庭的な浴室で落ち着いて入浴ができるよう支援している。	入浴は毎日、午前・午後と利用者の希望する時間に入れる体制をとっている。家庭的な浴室で落ち着いて入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、散歩や体操等を行うことで生活リズムを整えている。	日中、散歩や体操等を行うことで生活リズムを整えている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し個人ケースに整理し、職員が内容を把握できるようにしている。	服薬ファイルを作成し個人ケースに整理し、職員が内容を把握できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族の協力を得て、利用者の希望や嗜好にあった役割づくりを行っている。	家族の協力を得て、利用者の希望や嗜好にあった役割づくりを行っている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望する場所や買い物に出かけている。外食やドライブ等も行っている。	利用者の希望する場所や買い物に出かけている。外食やドライブ等も行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	川	自己評価	渦	自己評価
			実践状況		実践状況		実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方には、家族の協力を得て少額のお金を持ってもらっている。一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使用できるように支援している。		自分で管理できる方には、家族の協力を得て少額のお金を持ってもらっている。一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも電話をかけられるよう支援している。手紙やハガキでのやり取りも支援している。		希望時にはいつでも電話をかけられるよう支援している。手紙やハガキでのやり取りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアから菜園を見ることができ解放感がある。作物の成長を見て楽しんでいる。		庭先のガーデニングを見ることができ、日当たりもよく明るい雰囲気の中居心地よく生活している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室の部屋や炬燵、テーブル、ソファを置き、居心地よくつろげる空間をつくっている。		和室の部屋や炬燵、テーブル、ソファを置き、居心地よくつろげる空間をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真を持ち込み、馴染みの生活スタイルに合わせた居室づくりに取り組んでいる。		使い慣れた家具や写真を持ち込み、馴染みの生活スタイルに合わせた居室づくりに取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な生活環境づくりを心がけている。利用者にとって危険なものは配置せず、安全に生活できる環境を整えている。		安全な生活環境づくりを心がけている。利用者にとって危険なものは配置せず、安全に生活できる環境を整えている。		